

平成26年9月22日(月)

老球の細道64号

会津バスケット協会 『アスリート教室』 スタート

会津バスケットボール協会理事長 室井 富 仁

2017年福島インターハイ、そして2020年東京オリンピックを視野に置いた会津バスケットボール協会主催「バスケットボールアスリート教室」がスタートした。昨年に引き続き2年目である。第一回は9月15日(月)会津高校を会場に小学5年生から中学3年生まで約70名が参加した。

コーチングスタッフも松井会長、星強化委員長はじめミニから一般まで、それぞれのカテゴリーにおいて指導力のある有資格者が集ってくれた。会津地区全体のレベルアップのために「オール会津」体制できめ細かな指導をしていきたい。

内容はファンダメンタルを中心に行っているが、一味違うところは、練習会の最後に、スポーツドクターである松井会長からスポーツ医学とバスケットボール英語のミニ解説が毎回あることだ。ただ単に技術を教えたり、ゲームをやらせるだけではなく、バスケットボールを広い観点でとらえて、さらに将来を見据えながら育てていこうと考えている。

今回の受講者を見て喜ぶべきことは、昨年のアスリート教室のリピーターが多いこと、今まで参加が少なかった喜多方地区や高田地区からの参加者も増えたこと。残念なことは、昨年同様中学三年生の参加が少ないこと、ミニ、中学ともに女子の参加が少ないことである。特に3年生においては、高校生につなげるためにも多くの参加を望んでいたのだが親の心子知らずであった。女子に関してはモチベーションの低さが影響しているのだろうか。

この「アスリート教室」のコンセプトは基礎を大切にすること。トップアスリートに求められるのはこれに尽きる。練習に取り組む姿勢(心構え)も重要だ。力を出し惜しみしないで全力を尽くす、元気をみなぎらせる、頭を使う、そして自ら楽しんでプレーする。このようなことをジュニアの世代から習慣化できるように指導していきたい。今を充実させて将来に備える。バスケットのみならずあらゆる分野において通用するように。

私をはじめとする全コーチングスタッフにも、心身共にきちんと準備をして、情熱あふれる指導とあきらめない声かけを確認しあった。もっと上手になりたい、もっと自分を向上させたいと、貴重な時間をさいて参加して来た子ども達と保護者達の熱い思いを叶えてやるためにも、大いなる使命感をもって事に当たりたい。

今回のコーチングスタッフに高校生が3人志願してきた。いずれも会津地区のトッププレーヤーである。審判部門でも高校生のうちから公認審判を目指している者がいるので、将来コーチを目指す者も今から指導の現場を経験することは貴重なことである。しかも自分のプレー向上にも役にたつ。他人に教えることができ技術はホンモノとなるから。

これから12月までのべ9回の講習会が続く。準備と身体の鍛錬にまた充実した日々が続く。毎朝眺めていた我が家の朝顔もそろそろ終わりに近づいてきた。日常のジョギングコースには大好きなピンクのコスモスが姿をあらわした。皆限りある自分の生の期間を精一杯花を咲かせよと教えてくれている。周囲の田んぼの稲は黄金色に輝き、実るほどに頭を垂れはじめた(「実るほどに頭を垂れる稲穂かな」)。

第2の人生などと人は言うが内実は残り少ない人生。而今(今がすべて)と謙虚を自然から改めて教えられて、仕切り直しの今日この頃である。「敬老の日」は我まだ関せず。